

相産だより

誠実 創造 努力



芸術鑑賞会

6月15日(月)、3年に一度の芸術鑑賞会が行われました。今回は東京演劇集団「風」の皆様による『ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち』を、相生市文化会館(扶桑電通なぎさホール)にて鑑賞しました。整った音響・照明設備を備えた本格的なホールで、プロの舞台芸術に触れる貴重な一日となりました。

物語は、両親の深い愛に包まれて生まれたヘレン・ケラーが、2歳の時の病により光と音を失い、三重苦を背負うところから始まります。7歳になったヘレンのもとにやってきた家庭教師のアニー・サリバン先生は、自身の教師としての在り方に葛藤しながらも、ヘレンと心を通わせるために体当たりで向き合います。最初は激しく反発するヘレンに対し、サリバン先生は決して諦めることなく、指文字を通じて根気強く教育を続けました。幾多の障壁を乗り越え、ヘレンがようやく言葉の意味を理解し、世界とつながった瞬間、劇場の空気が一変し、生徒たちはその圧倒的な演技に強く引き込まれました。人間の愛情と不屈の精神、そして教育の原点を描いた感動のストーリーに、誰もが心を揺さぶられたひとときでした。また、公演後には、生徒7名が劇団員の方々と座談会を行い、直接お話を伺うという特別な機会にも恵まれました。



～生徒感想(抜粋)～

- ・舞台を鑑賞し、何事もあきらめず、努力し続けることの大切さを実感しました。ヘレンが聴力・視力・言葉がわからないという状態で、サリバン先生が指文字でコミュニケーションをとろうと必死でヘレンと向き合ったことに感動しました。
- ・劇団「風」の皆さんの表現力に圧倒されました。2階席の後方からでしたが、役者の方々の動きは隅々まで行き届いており、セリフも驚くほど明瞭に聞こえてきました。高い技術に支えられた素晴らしい舞台を観ることができ、大変感激しています。感動的な体験を本当にありがとうございました。
- ・僕は今日の劇を通して、最後まであきらめないことの大切さを学びました。最初はお互いうまくかみ合わないことが多かったですが、ゆっくり教えていくことでヘレン・ケラーは文字がわかるようになります。これは僕の日常にもよくあり、勉強でもわからない問題をあきらめずに解くこと、部活のスポーツも、練習をたくさんして努力することがあります。僕は努力が報われることを信じて、最後まであきらめず取り組む姿勢を学びました。学校生活や地域活動など、多くの人と関わられることを大切にしていきたいです。
- ・私はヘレン・ケラーの小説を小学生の時に読んだことがあり、それを劇で観られることにワクワクしていました。役者の方々は、音響や、BGMやライトアップなどで、場面ごとの雰囲気を作りやすく表現されていて、感激しました。サリバン先生が、ヘレンの「目となり、口となり、耳となり」、深い関係を築いていくところに感動しました。「あきらめずに努力し続けること」「人とのコミュニケーションを大事にすること」「周りの人への感謝の気持ちを持つ」ことの大切さを学びました。友だちや先生との意思疎通を大切に、有意義な学校生活を送っていききたいと思いました。